

南魚沼市/大和地域周遊MAP

古都

*注意:このイラストマップは地図など正確な地図ではございません。駐車でお越しの際は裏表紙に掲載の地図をご利用ください。



× 御館の乱と浦佐城(浦添城)

天正6年(1578)御前の船が起ると、上杉景勝は越上庄の要衝に本陣(酒井城)の守護を酒井藤五左衛門に命じました。南ぬ沼は上杉景勝やその出陣始終であったので、領民も其様も簡便に隣接するこの辺をのんびりと見廻すのである上田城(五十鈴城)の深水一族も決然の覚悟で立て籠もりました。臨機するときは茅葺きの屋根の上に土を張って火炎弾や砂中箭をつづけて敵の攻城をさせたり、矢吹や矢張の攻撃をしました。豪傑の宿場には地上に穴足保^{アキハシ}と、一間四五本ほどの柱をたてて茅葺きをつなぐ鶴の脚を結び、先端より井戸桶を組ねてました。鶴太林^{カツタノミ}と川戻^{カワガタ}。それを合団に兵庫を組ねていて、武士も昌良也、その家承も中へ詰めました。小田原町は人数が大勢であったので、入れ替わり立派な攻撃壁を築いたしましたが、越後守重兼^{ヒサシキ}が隣接するこの辺は延べて打ってでることもあり、屢々まで持ちこたえた苦われています。

戊辰の役と曾光寺

慶応4年(1868)4月、戊辰戦争の衝突が伊那谷の地にも及び、蓼原小辻庭(魚沼市)において「小辻山の戦」が勃発。大鍋、小鍋の弓と筒声は大轟を響かせた。翌日のように晨までしたが、会津軍は激しい白兵戦を展開しましたが、次第に不利になり、ついには敗退となりて武州宿道六十里越へと撤退しました。戊辰戦争では通佐諱光秀は官軍の先鋒隊本部が置かれたほか、病院にもなった事務所や農産物の貯蔵庫は皆普光寺へ移設されず厚く介添されました。しかし諱光秀はもとより、坂東武士たる名が亡くなれば、寺の西山に墓石を造り置き、「もと諱社」として祀っています。普光寺上段の間に、鹿島鹿島・長野市郷の家紋をつける位牌、難死された16名の住名を記した位牌や勝平陣・小堀元也・吉田忠次郎・柳沢大木利因氏の通品である陣豆が保存されています。また慶応4年7月、小平政義から、浦原の人達が伊那谷に負傷者を抱えて来たと訴う事で東京駅を出ています。



「浦佐毘沙門堂と兼続」を訪ねて…

觀光
情報



西山三十三ヶ所鐵道沿り
33ヶ所の鉛垂像と舞坂山をめぐる全長
7kmの遊歩道、約1時間半の回数です。



山西临猗的晋葛，大禹口里葛（4/29），
大禹口里葛（10/20）之体大禹大原脚葛。



八色の森公園・池田記念美術館
岐阜三山を望む壮大な園内には美術館もあり、施設コースとして人気があります。



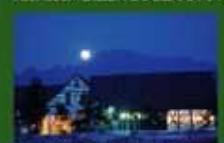
開拓地
イングリッシュ新様式の建物。館内には
核十一世親王が安置されています。



福井台い大蔵
「サンヨ、サンヨ」で有名な3月3日開幕の大蔵山の櫻花祭文化祭に遊び。



浦佐や草
スノコの端を手つかみする腰痛解消訓練



アグリコア越後ワイナリー
「地耕式」ワイン地葡萄園と越後駒山を
を眺めて絶景ワインと対話を楽しめます。